

雪の福島稲荷神社(福島市)を先週の土曜日に訪ねた。



「指名なき総長」の鼻息

水説

古賀 攻

「恥」を重んじる我が国の国柄であり、神職こそがその体現者ではなかったのか。先月の序報にそう書いた。田中総長が致命的な不祥事を抱え、かつ神社界の最高権威である総長の指名がないにもかかわらず、昨年6月に本庁役員会の「多数決」で続投を正当化したことに義憤が収まらない。

同時に、今の神社本庁が「二線」を越えた政治活動への傾倒を見せられたことにも、本来の神社像ではないと考えている。境内での憲法改正の署名運動や、性的少数者保護に批判的な活動を指す。「神社にはいらない考えの氏子」がいます。人口減で末端の神社は青息吐息なのに、政治ごっこに

つつを抜かしている場合ですか。私は改憲に賛成ですが、神社はもっとおろかだったはずですよ。社長の30代目。慶応大で英語と男声合唱に打ち込んだ後、父の跡を継いだ丹治さんはそう語る。「総長の指名なき田中総長」の問題は、昨年暮れに一つの節目を迎える。鷹司尚武総長(77)から「新総長」に指名された側が訴えた裁判で、東京地裁は12月22日、役員会の議決すなわち多数決が整っていない以上、新総長とは認め

られないとの判決を出した。神社本庁の勝訴ではある。ただこれで決着する見込みはない。総長はかつて「総長の命を受け」業務にあたるポストだった。しかし、総長が代表のままでは世俗的なトラブルに巻き込んでしまつとして、宗教上はあくまで総長がトップ、世俗的な責任者は総長というすみ分けがなされた。鷹司総長がこの先に田中総長を指名することはない。裁判は控訴審に移る。このため慣例の「2期

6年」を破って「5期15年」を目指す田中総長は、宗教上の正統性を得られず、1審判決を持ち出さないという自らの地位を説明できない不安定な状態に置かれ続ける。それでも神社本庁は機関誌上で「総長による指名は、役員会の判断に基づいて行われる形式的行為にすぎない」と勝ち誇っている。神社界の規律は多数決とは違う次元にあるはずなのに、その鼻息はすこぶる荒い。(専門編集委員) 2023.2.15

GDP 2期ぶり増 10〜12月期

内閣府が14日発表した2022年10〜12月期の国内総生産(GDP)は、個人消費と訪日外国人客(インバウンド)の増加による外需がけん引し、2四半期ぶりのプラス成長となった。しかし、物価高や燃料費の上昇が続き、先行きは消費マインドの落ち込みも懸念される。東京都内の百貨店などを歩き、消費の現場と日本経済の行く末を探った。

増加。旅行などのサービス消費の伸びが景気を支えた。ただ、物価高などによる景気の先行き不安もあり、年率1.0%減だった7〜9月期からの回復は小幅にとどまった。22年の実質GDPは前年比1.1%増で、プラスだった。21年の2.1%から成長は鈍化した。内訳を見ると、GDPの過半を占める個人消費は0.5%増で3四半期連続のプラスとなった。政府の観光支援策「全国旅行支援」の

効果もあって旅行や外食などのサービス消費が回復した。部品の供給不足が緩和され自動車などの耐久財が伸びた。その一方、値上げ前の駆け込み需要の反動や家計の節約志向で、食料品や衣服が低迷し、個人消費の伸びは力強さを欠いた。内需のもう一つの柱である企業の設備投資は0.5%減で、3四半期ぶりのマイナスだった。半導体需要の減少で、半導体製造装置向けの投資が減少。一般機械や携帯電話も減った。輸出は1.4%増だった。水際対策の大幅緩和によって訪日外国人客(インバウンド)の需要が大きく伸び、統計上、輸出の増加に寄与した。輸入は前期に大幅に増えた反動で0.4%減だった。【松山文音】

消費先行き不透明感

内閣府が14日に公表した2022年10〜12月期の国内総生産(GDP)は、個人消費と訪日外国人客(インバウンド)の増加による外需がけん引し、2四半期ぶりのプラス成長となった。しかし、物価高や燃料費の上昇が続き、先行きは消費マインドの落ち込みも懸念される。東京都内の百貨店などを歩き、消費の現場と日本経済の行く末を探った。

プラスとなった。百貨店以外でも消費は活発になっている。1.3%に約400店が軒を連ねる戸越銀座商店街(東京都品川区)。手軽に食べ歩きができ、日本の食文化も楽しめる。国内だけでなく、海外からの観光客にも人気のスポットだ。

2月14日のバレンタインデーに向け、都内の百貨店では同月上旬から催事ブースを設けた。松屋銀座(東京都中央区)では、8階のイベントスペースで前年より9店舗多い81ブランドが出店。チョコレットと一緒にハイボールやカ

検証

百貨店大手の「三越伊勢丹」の旗艦店・伊勢丹新宿店(東京都新宿区)。2月中旬に訪れると、平日にもかかわらず、

成長 高級店に長い列

これまででは新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動制限や、海外からの訪日外国人客の需要消失によって打撃を受けてきた。しかし次第に感染が落ち着き、水際対策の緩和によって台湾や韓国からの訪日客が目立つようになってきた。

「浪漫須磨古糖(ロマン ストコロレット)」のオーナーシヨコラティエ、須藤銀雅さんは「昨夏ごろから力カオなどの原料費や包材費の価格上昇をより強く感じるようになった」と話す。輸送のコストも大きな負担だ。「ユニ マサルコウズ」の上妻正治さんは、昨年



主力品種への転換を目指す「とちあいか」
—栃木県提供

「とちあいか」の主力

切った断面 ハート形 甘くて大粒 収量多く
なるほど、栃木県がイチゴの主力品種を「とちあいか」から「とちあいか」に変えるんだって。
記者 栃木県はイチゴの生産量で54年連続日本一を誇り、現在は県全体の栽培面積のうち81%を「とちあいか」が占めています。2022年8月に県やJA、生産者らで作る会議で今後10年間の「いちご王国・栃木」戦略を策定し、27年6月までに県全体の栽培面積に占める「とちあいか」の割合を今の10%から約80%にするこ

質問は100-8051
日新聞「なるほど」
QRコード
毎日10時
も集ま